



ソウル市立美術館・ナンジレジデンス



仁川文化財団・仁川アートプラットフォーム



光州市立美術館・GMAレジデンス



釜山文化財団・ホンチアートセンター



Seoul/ソウル  
ナンジレジデンス

Incheon/仁川  
仁川アートプラットフォーム

Seque : Korean Envoys  
続・朝鮮通信使

# 韓国 AIR 報告展

● Gwangju/光州  
GMAレジデンス

● Busan/釜山  
ホンチアートセンター

2021年9月10日 [金] ~ 26日 [日]

11:00 ~ 19:00

BankART KAIKO 入場無料

アーティストトーク 9月23日 [木・祝] 17:30 ~ 19:00 料金: ¥500 (小冊子付)

蔵 真墨  
太田信吾  
黒田大スケ  
下西 進  
中川達彦

● 対馬

● 下関

● 宇部

● 上関

● 瀬戸内

# 韓国 AIR 報告展

## 続・朝鮮通信使

2010年頃から、BankART1929では、主に江戸時代に行われていた日韓交流プロジェクトである「朝鮮通信使」を参照しながら、地域を訪ねる、シンポジウムや展覧会を行うなどの活動を通じて、日韓の新しいネットワーク構築を試みる「続・朝鮮通信使」のプロジェクトを行ってきました。江戸時代の経路にそって、10~40人のクリエイターたちと共に船に乗り込み、ゆかりの港町を巡る。対馬から下関、上関と瀬戸内を往き、大阪から東海道、関東へと旅を続けました。(同様に韓国国内も) こうした活動の中、韓国人を招き、滞在制作してもらおうAIR(アーティストインレジデンス)事業へと展開。数名の韓国作家を3ヶ月間ほど招き、滞在制作と発表をしてもらいました。同様に、日

本人作家を韓国に送るプログラムもスタート。ところが、残念なことに、こうした活動はBankART Studio NYKの解体撤去問題、慰安婦を含む日韓の政治的な問題、コロナ禍の問題などで、活動は余儀なくストップされてしまいました。さて、こうした困難な問題も、時間が経過し、少しずつですが、解決の糸口も見えかけてきました。ゆっくりですが、やり残した尻切れトンボになった仕事を納め、次にいきっかけにしたいと思います。2017年に韓国の施設で滞在制作した5人の作家の展示も含む報告会を開催したいと思います。皆様、ぜひご来場ください。

### 蔵真墨

釜山文化財団・ホンティアートセンター  
滞在期間:2017/7/1~9/30

2015年に釜山を訪れ良いところだ、ゆっくり撮影したいと思っていたのだが、それが叶った。滞在先のホンティアートセンターは釜山の中心部から小一時間ほどのところにあり海が近くのだかな場所だ。スタジオの大きな窓からは太陽光がたっぷり差し込む。私はフィルムで撮影しているので制作に暗室が必要だ。いかに隣国とはいえ海外で感材を調達し、大きな窓を遮光するのは多少手間取った。その不便さも含めて釜山が愛おしい。

くら・ますみ | 写真家。1975年富山県生まれ。2010年さがみはら写真新人奨励賞。代表的なシリーズとして「蔵のお伊勢参り」[Men are Beautiful]。2019年「パッコゴソヨ」(ふげん社)。

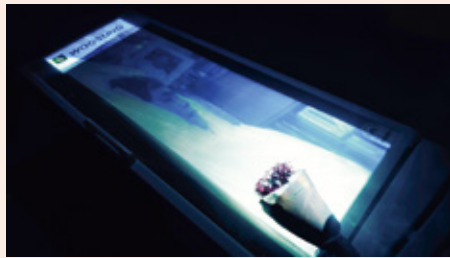


### 太田信吾

ソウル市立美術館・ナンジレジデンス  
滞在期間:2017/7/11~10/11

普段、私は映画監督・俳優として活動しています。今回、初めてのレジデンス滞在・インスタレーション作品の制作を行うことにしました。今まで、映画の公開を通じて交流のあった韓国の方々と、映画とは違った角度でより深い取材・コラボレーションを行いたいと考えたのです。具体的には、韓国でもすでに映画祭などで発表していた監督作のドキュメンタリー映画「わたしたちに許された特別な時間の終わり」(2014年全国ロードショー、現在Amazon Prime他配信中)で扱った“自殺”というテーマにさらに深めるため活動をしました。世界的にも自殺率が高いことで知られる韓国における実地調査・現地での若者たちとの対談などを行い議論を深めました。活動の成果をインスタレーション作品としてまとめました。滞在は作品の反響もあり、有意義な時間となりました。

おた・しんご | 映画監督、俳優。1985年長野県出身。監督としての代表作に映画作品「わたしたちに許された特別な時間の終わり」「解放区」「サンライズ・ヴァイブレーション」など。俳優としてKAATプロデュース「未練の幽霊と怪物」などに出演。

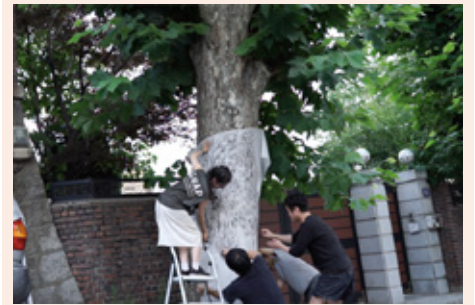


### 黒田大スケ

仁川文化財団・仁川アートプラットフォーム  
滞在期間:2017/6/8~8/22

仁川の滞在は充実したものだ。韓国の同世代のアーティストの実情を知ることが出来たし、相対的に自身の置かれている状況についてもゆっくり深く考えることが出来た。それは単にアーティストとしてだけでなく、東アジアの中で生きるということについても、今後の活動についていくつかのヒントを得たように思う。仁川に滞在することが出来て本当に良かったと思っている。

くろだ・だいすけ | 1982年京都府生まれ。広島市立大学大学院博士後期課程修了(彫刻)。近年は東アジアの彫刻概念についてのリサーチと制作に取り組んでいる。主な展覧会に「対馬アートファンタジア」(2011-2021)、「瀬戸内国際芸術祭2016」等。



### 中川達彦

光州市立美術館・GMAレジデンス  
滞在期間:2017/8/23~10/22

自分にとっては初めての海外でのレジデンスでした。ただ韓国は何度も訪れている国でその時一番印象に残っていたのは至る所にある教会そして夜になると白色や赤色に輝く十字架でした。この街にもたくさんの教会があったので、おはようからおやすみまで光州の暮らしを見つめる十字架を撮影しました。

なかがわ・たつひこ | 写真家。1961年大阪府生まれ。1986年頃からPHスタジオのメンバーとして活動。2010年頃からBankART1929のオフィシャルカメラマンとしても活動している。川俣正氏のインスタレーションや柳幸典氏、故田中信太郎氏など数多くの作家の作品の撮影、また続・朝鮮通信使の全プログラムの記録などを手がける。近年ではTOKYO2020関連のアーツカウンシル東京のプログラムTokyo Real Undergroundのオフィシャルフォトグラファーを務めるなど、美術に限らず、ダンスや舞踏そして建築など貴重なアーカイブの写真を撮り続けている。



### 下西進

光州市立美術館・GMAレジデンス  
滞在期間:2017/8/23~11/1

今回の滞在制作では、主に三つの作品を制作した。第一は、私が韓国の焼酎メーカーの広告に出演するという設定の写真とパフォーマンス作品、第二は、これまで世界中の都市で撮影してきたシリーズのセルフポートレートの映像作品、第三は、光州市の人々の記憶を小さな歴史として映像に記録するプロジェクトである。いずれもこれまでの活動の延長となるものだが、幅広い世代の人たちとの交流により、日本と韓国の文化や歴史について知見を広げることができ、充実した滞在制作となった。

しもにし・すすむ | 美術作家、東京芸術大学 研究員。1977年広島市出身。これまで、世界各地の都市を舞台としたセルフポートレートの写真・映像作品等を制作している。



お問い合わせ | BankART1929  
info@bankart1929.com  
tel 045-663-2812

アクセス | BankART KAIKO  
横浜市中区北仲通5-57-2  
KITANAKA BRICK & WHITE 1F  
tel 045-663-2813

みなとみらい線「馬車道」駅、2a出口のエスカレーターを上がり、右手の建物にお入りください。

